

年次	2 年
対象	27 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

デザイン芸術学科 ディプロマポリシーの1～5項目中

1．ディプロマポリシーの「デザイン、美術工芸に関する知識を身につける」に関与する科目である。

生涯学習時代の到来により、人々の価値観は「量」から「質」の追求へ、すなわち付加価値を有するものの追求へと大きく変化している。これにより博物館には児童生徒から大人までの多様な要求を持つ人々が訪れる。これからの博物館専門員である学芸員にはこれらの人々を支援していく能力・態度が求められる。

講義では、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。また、博物館教育の現状を把握するためにも、必要に応じて教育及び博物館に関するトピックも取り上げる。

【フィードバック】

課題（確認テスト、レポート等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroom を活用した双方向型授業を展開する。

- ・確認テストは、Google Classroom に課題を提示するので、提出期限までにGoogle Classroom に提出する。
- ・授業終了後に授業内容及び配付資料等を提示する。（復習に活用して下さい）
- ・課題（レポートⅠ・Ⅱ）はGoogle Classroom を通じて提示し、提出する。
- ・授業終了後に、当日配布した資料等を提示する。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用して、質問できるようにする。

到達目標

- 1．児童生徒及び大人を指導・助言するために必要な教育に関する基礎的知識を理解し、説明できるようになる。
- 2．生涯学習における博物館の位置づけを理解し、説明できるようになる。
- 3．博物館と学校・地域社会との連携のあり方について理解し、説明できるようになる。
- 4．児童生徒及び大人に対する博物館資料の展示・立案・評価などの基礎的知識を理解し、説明できるようになる。

評価方法

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト30％（到達目標1，2，3，4を評価）、レポート2課題30％（到達目標2，4を評価）、定期試験40％（到達目標1，3，4を評価）による成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・本科目は博物館学芸員課程の必修科目であるので、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修すること。
- ・授業中に出席確認を行う。遅刻は3回で1欠席とする。
- ・講義終了前に講義内容に関する確認テストを行い、解答した出席用紙を提出してもらう。次回の講義開始時に確認テストについてコメントする。
- ・机上には飲食物を置かないこと（脱水症状防止のために、飲むことは禁止しない）。
- ・レポートの提出期限を守ること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	学びとは1 （人間の成長発達、教育・学習の必要性、教育の場）
第3回	学びとは2 （生涯学習、成人の発達特性、主体的学習の形成）
第4回	生涯学習・人材養成の場としての博物館

回数	内容
第5回	博物館教育の実践に役立つ理論 1（エリクソン・ピアジェ）
第6回	博物館教育の実践に役立つ理論 2（コミュニケーションの理論モデル、構成主義教育）
第7回	博物館展示の教育的意義 1（コミュニケーションの媒体としての展示）
第8回	博物館展示の教育的意義 2（鑑賞者の学習に寄与する展示）
第9回	博物館での教育実践（ワークショップ・体験学習等）
第10回	博物館と学校との連携 1
第11回	博物館と学校との連携 2
第12回	博物館と地域との連携（アウトリーチ）
第13回	博物館教育活動の企画と実施 1
第14回	博物館教育活動の企画と実施 2
第15回	博物館教育の方針と評価・まとめ

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・必ず授業の予習・復習をすること。
- ・講義内容を理解・整理するために、2つのレポートを課す。
- ・現在教育及び博物館を支える社会が大きく変化しているので、絶えずニュース・新聞等を通して変化しつつある社会の動向を把握しておくこと。
- ・平素から積極的に博物館を訪問し、どのような活動が行われているか観察すること。

教科書

黒沢浩編著『博物館教育論』講談社,2015.978-4-06-156542-5

参考書

- ・小笠原・並木・矢島編『博物館教育論－新しい博物館教育を描きだす－』ぎょうせい,2012.
- ・寺島・大高『博物館教育論』放送大学教育振興会,2012.
- ・小笠原喜康『博物館の学びをつくりだす』ぎょうせい,2009.
- ・『新時代の博物館学』芙蓉書房出版,2012.
- ・大堀哲・水嶋英治編著『博物館学II－博物館展示論*博物館教育－』学文社,2012.

備考

年次	2 年
対象	27 ～ 20 N
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 小山悦司

授業の概要

デザイン芸術学科 ディプロマポリシーの1～5 項目中

1．ディプロマポリシーの「デザイン、美術工芸に関する知識を身につける」に関与する科目である。

本科目では、(1)博物館における情報・メディアの意義、(2)博物館情報・メディアの理論、(3)博物館における情報発信、(4)博物館と知的財産を中心に学ぶ。
特に、博物館における先進的な情報・メディアの活用について概観し、今後の方向性について展望する。また、博物館における情報・メディアの活用について、科学博物館、自然史博物館、美術館、歴史博物館等でのフィールドワークを通して、実践的な理解を深めることを目的としている。

【アクティブ・ラーニング】

グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】

最終回の授業において、レポート・プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【I C Tを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。

- ・課題レポートの提示と提出は、Google Classroomを活用して行う。
- ・参考となる資料や文献、確認しておくべきWeb サイトなどを提示する。
- ・授業時間外での質問については、Google Classroomを通して回答する。

到達目標

- 1 博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し説明できる。
- 2 博物館における情報の提供と活用等に関する基礎的な知識・技能を身に付け実践できる。
- 3 教室での授業に加えて博物館でのフィールドワークを通して、(1)博物館における情報・メディアの意義、(2)博物館情報・メディアの理論、(3)博物館における情報発信、(4)博物館と知的財産について理解し、学芸員に求められる応用的な知識・技能を身に付け実践できる。

評価方法

理論調査報告レポート15%と理論調査プレゼンテーション15%（到達目標2を評価）、実地調査報告レポート15%と実地調査プレゼンテーション15%（到達目標3を評価）、定期試験40%（到達目標1を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格科目として、授業の水準を維持する必要があるので、明確な目的意識を持って履修すること。

博物館情報・メディアに関するテーマを設定し、理論調査と実地調査（フィールドワーク）の結果をレポートにまとめてプレゼンテーションを実施する。実際に博物館においてフィールドワークを行うので、自主的かつ積極的な態度や姿勢が求められる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について
第2回	博物館情報・メディア論の目的・内容および方法
第3回	情報・メディアの意義と重要性 【グループ・ワーク】
第4回	ICT社会の中の博物館
第5回	情報教育の意義と必要性
第6回	博物館における情報化の進展

回数	内容
第7回	資料のドキュメンテーションとデータベース化
第8回	個人情報(肖像権等)と知的財産権(著作権等)
第9回	博物館情報・メディアの活用事例 【フィールド・ワーク】
第10回	科学博物館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第11回	博物館における効果的な情報発信に向けて 【プレゼンテーション】
第12回	美術館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第13回	歴史博物館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第14回	博物館における効果的な情報発信に向けて 【プレゼンテーション】
第15回	レポート・プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた事後指導・総括

授業外学習

博物館を訪問してフィールドワークを行い、情報・メディアの観点から実地調査報告レポートにまとめてプレゼンテーションの準備を行う。
フィールドワーク（実地調査）の実施、レポートの作成、プレゼンテーションの準備など、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

特に使用しない。自作教材を配布する。

参考書

必要に応じて適宜指示する。

備考

Google Classroomを基本ツールと活用する。

年次	3 年
対象	26 ～ 21 B
単位数	2． 0 単位
担当教員	 大塚雅広

授業の概要

芸術や科学の形成に欠かせないコレクションを保存・研究・展示する機関としての博物館・美術館を運営面から講義する。

- 【I C Tを活用した 双方向型 授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。
- ・ 都度、必要な資料、確認しておくべき Web サイトなどを提示します。
 - ・ 授業時間外での 授業や 課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにします。
 - ・ 授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のストリーム 機能を活用します。

到達目標

博物館の社会的・教育的役割を把握して、学生各自が博物館の諸活動を理解し説明できるようになる。

- 1..多様な:経営資源の利用法、手法、技法を理解できる。（応用力・構成力）
- 2.専門性をいかした、研究ができる。（技術・表現力）
3. 先行研究を深く理解し説明できる。（知識）

評価方法

- 授業態度による平常点20%（到達目標 1、 2、 3 の評価）
- レポート30%（到達目標 1、 2、 3 の評価）
- 定期試験50%（到達目標 1、 2、 3 の評価）

注意事項

学芸員資格取得のため必要な科目である。

授業計画

回数	内容
第1回	博物館と経営
第2回	博物館の経営基盤
第3回	博物館設置の条件
第4回	博物館の使命と経営
第5回	博物館の人材と組織
第6回	博物館倫理・行動規範
第7回	施設設備
第8回	博物館の危機管理
第9回	博物館の予算と経営
第10回	ミュージアム・マーケティング
第11回	博物館広報
第12回	ミュージアム・サービス
第13回	博物館の企画・運営(1)
第14回	博物館の企画・運営(2)

回数	内容
第15回	博物館における連携
授業外学習 学習時間の目安：合計60時間 授業内に示す「予習のためのキーキーワード」について次回の授業までに調べておく(各2時間)とともに、復習を徹底する(各2時間)。また、指定したテーマに対しレポートを提出する。	
教科書 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	
参考書 必要に応じて指示する。	
備考 特になし	

年次	3 年
対象	26 ～ 24 M
単位数	2． 0 単位
担当教員	 大塚雅広

授業の概要

芸術や科学の形成に欠かせないコレクションを保存・研究・展示する機関としての博物館・美術館を運営面から講義する。

- 【I C Tを活用した 双方向型 授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。
- ・ 都度、必要な資料、確認しておくべき Web サイトなどを提示します。
 - ・ 授業時間外での 授業や 課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにします。
 - ・ 授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のストリーム 機能を活用します。

到達目標

博物館の社会的・教育的役割を把握して、学生各自が博物館の諸活動を理解し説明できるようになる。

- 1..多様な:経営資源の利用法、手法、技法を理解できる。（応用力・構成力）
- 2.専門性をいかした、研究ができる。（技術・表現力）
3. 先行研究を深く理解し説明できる。（知識）

評価方法

- 授業態度による平常点20%（到達目標 1、 2、 3 の評価）
- レポート30%（到達目標 1、 2、 3 の評価）
- 定期試験50%（到達目標 1、 2、 3 の評価）

注意事項

学芸員資格取得のため必要な科目である。

授業計画

回数	内容
第1回	博物館と経営
第2回	博物館の経営基盤
第3回	博物館設置の条件
第4回	博物館の使命と経営
第5回	博物館の人材と組織
第6回	博物館倫理・行動規範
第7回	施設設備
第8回	博物館の危機管理
第9回	博物館の予算と経営
第10回	ミュージアム・マーケティング
第11回	博物館広報
第12回	ミュージアム・サービス
第13回	博物館の企画・運営(1)
第14回	博物館の企画・運営(2)

回数	内容
第15回	博物館における連携
授業外学習 学習時間の目安：合計60時間 授業内に示す「予習のためのキーキーワード」について次回の授業までに調べておく(各2時間)とともに、復習を徹底する(各2時間)。また、指定したテーマに対しレポートを提出する。	
教科書 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	
参考書 必要に応じて指示する。	
備考 特になし	

年次	2 年
対象	23 ～ 20 B
単位数	2．0 単位
担当教員	 三宅利枝

授業の概要

時代の変化と博物館の在り方、そこに携わる学芸員の役割と実態について、日本における博物館の歴史と活動をふまえて講義する。美術館学芸員として勤務するなか、展覧会やイベントの企画・運営・管理をはじめ、資料管理など多岐にわたる博物館業務に関わり、さまざまな実務経験を有しているため、博物館と学芸員について現場の実状と課題をもふくめて多様な視点から授業を行う。

【アクティブラーニング】

問題解決型学習、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】

課題レポートや作成物、グループワーク、プレゼンテーションに対する講評などの指導を行う。

【I C Tを活用した 双方向型 授業】

- ・Google Classroomを活用した授業資料や参考URLの提示。
- ・Google Classroomを活用した課題提出とフィードバック。
- ・Google Classroomを活用した授業時間外での授業や課題に関する質問対応。

到達目標

- 1.知識・技術、表現について理解できる。
- 2.表現の特徴を理解し、自らの研究にいかすことができる。
- 3.作品について体系的に説明できる。
(2年次自己評価用ルーブリックより)

博物館と学芸員について、その機能や役割を社会と関係づけて理解する。

博物館と学芸員の基礎的知識を修得し、社会の一員として、時代の課題や社会の要請に応えるために必要な能力と姿勢を身につける。

評価方法

授業に取り組む姿勢20%（到達目標1、2、3を評価）・課題作成物10%（到達目標2を評価）・プレゼンテーション10%（到達目標1、2、3を評価）・期末レポート80%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合60点以上を合格とする。

注意事項

- ・学芸員は独自の専門性はもちろんだが、発想力や企画力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション力、マネジメント力なども求められ、実践活動を行う。本科目および学芸員課程科目は、どのような職種でも、社会人としても役立つ要素を含んでおり、高い目的意識をもって履修し、責任感や社会意識の涵養にも努めること。
- ・博物館は時事問題と深く関わることも多く、日々のニュースや新聞などに関心を寄せておくこと。
- ・課題作成物、レポートの提出期限を厳守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の概要・課題など説明）
第2回	博物館の社会貢献―公益性と公共性―
第3回	博物館資料―多様な価値と価値観の尊重―
第4回	様々な博物館―設置者と使命～存在と基盤～
第5回	博物館の事業―経営と運営～社会からの信頼と支援～
第6回	課題発表①「博物館・展覧会紹介」
第7回	博物館の機能①―収集・保存 ～過去・現在・未来～歴史資料の実例から

回数	内容
第8回	博物館の機能②―調査研究～活動の原動力～
第9回	博物館の機能③―展示・教育普及～新たな価値の創造～
第10回	博物館の機能④―発信と連携～博物館の総合力～
第11回	課題発表②「展覧会企画案」
第12回	美術館・教育普及活動の実践①―対話型鑑賞―
第13回	美術館・教育普及活動の実践②―ワークショップ―
第14回	博物館の機能⑤―学芸員～担う仕事、期待される役割―
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・普段からできる限り多くの博物館を訪れること。
- ・見学困難な状況下では、関係する書籍やWEBなどを数多く閲覧し、現状下における動向や取り組みを注視し、知識を深めておくこと。
- ・課題作成

課題①博物館・展覧会レポート

課題②展覧会の企画プランの作成

教科書

教科書は使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

特になし

年次	2 年
対象	27 ～ 24 B,M
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 三宅利枝

授業の概要

時代の変化と博物館の在り方、そこに携わる学芸員の役割と実態について、日本における博物館の歴史と活動をふまえて講義する。美術館学芸員として勤務するなか、展覧会やイベントの企画・運営・管理をはじめ、資料管理など多岐にわたる博物館業務に関わり、さまざまな実務経験を有しているため、博物館と学芸員について現場の実状と課題をもふくめて多様な視点から授業を行う。

【アクティブラーニング】

問題解決型学習、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】

課題レポートや作成物、グループワーク、プレゼンテーションに対する講評などの指導を行う。

【I C Tを活用した 双方向型 授業】

- ・ Google Classroomを活用した授業資料や参考URLの提示。
- ・ Google Classroomを活用した課題提出とフィードバック。
- ・ Google Classroomを活用した授業時間外での授業や課題に関する質問対応。

到達目標

- 1.知識・技術、表現について理解できる。
- 2.表現の特徴を理解し、自らの研究にいかすことができる。
- 3.作品について体系的に説明できる。
(2年次自己評価用ルーブリックより)

博物館と学芸員について、その機能や役割を社会と関係づけて理解する。

博物館と学芸員の基礎的知識を修得し、社会の一員として、時代の課題や社会の要請に応えるために必要な能力と姿勢を身につける。

評価方法

授業に取り組む姿勢20%（到達目標1、2、3を評価）・課題作成物10%（到達目標2を評価）・プレゼンテーション10%（到達目標1、2、3を評価）・期末レポート80%（到達目標1、2、3を評価）により成績を評価し、総合60点以上を合格とする。

注意事項

- ・学芸員は独自の専門性はもちろんだが、発想力や企画力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション力、マネジメント力なども求められ、実践活動を行う。本科目および学芸員課程科目は、どのような職種でも、社会人としても役立つ要素を含んでおり、高い目的意識をもって履修し、責任感や社会意識の涵養にも努めること。
- ・博物館は時事問題と深く関わることも多く、日々のニュースや新聞などに関心を寄せておくこと。
- ・課題作成物、レポートの提出期限を厳守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の概要・課題など説明）
第2回	博物館の社会貢献―公益性と公共性―
第3回	博物館資料―多様な価値と価値観の尊重―
第4回	様々な博物館―設置者と使命～存在と基盤～
第5回	博物館の事業―経営と運営～社会からの信頼と支援～
第6回	課題発表①「博物館・展覧会紹介」
第7回	博物館の機能①―収集・保存 ～過去・現在・未来～歴史資料の実例から

回数	内容
第8回	博物館の機能②―調査研究～活動の原動力～
第9回	博物館の機能③―展示・教育普及～新たな価値の創造～
第10回	博物館の機能④―発信と連携～博物館の総合力～
第11回	課題発表②「展覧会企画案」
第12回	美術館・教育普及活動の実践①―対話型鑑賞―
第13回	美術館・教育普及活動の実践②―ワークショップ―
第14回	博物館の機能⑤―学芸員～担う仕事、期待される役割―
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・普段からできる限り多くの博物館を訪れること。
- ・見学困難な状況下では、関係する書籍やWEBなどを数多く閲覧し、現状下における動向や取り組みを注視し、知識を深めておくこと。
- ・課題作成

課題①博物館・展覧会レポート

課題②展覧会の企画プランの作成

教科書

教科書は使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

特になし

年次	2 年
対象	27 ～ 24 K,B,M
単位数	2．0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

生涯学習時代の到来により、人々の価値観は「量」から「質」の追求へ、すなわち付加価値を有するものの追求へと大きく変化している。これにより博物館には児童生徒から大人までの多様な要求を持つ人々が訪れる。これからの博物館専門員である学芸員にはこれらの人々を支援していく能力・態度が求められる。

講義では、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。また、博物館教育の現状を把握するためにも、必要に応じて教育及び博物館に関するトピックも取り上げる。

【フィードバック】

課題（確認テスト、レポート等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方型授業】

本授業では、Google Classroom を活用した双方向型授業を展開する。

- ・確認テストは、Google Classroom に課題を提示するので、提出期限までにGoogle Classroom に提出する。
- ・授業終了後に授業内容及び配付資料等を提示する。（復習に活用して下さい）
- ・課題（レポートⅠ・Ⅱ）はGoogle Classroom を通じて提示し、提出する。
- ・授業終了後に、当日配布した資料等を提示する。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用して、質問できるようにする。

到達目標

- 1．児童生徒及び大人を指導・助言するために必要な教育に関する基礎的知識を理解し、説明できるようになる。
- 2．生涯学習における博物館の位置づけを理解し・説明できるようになる。
- 3．博物館と学校・地域社会との連携のあり方について理解し・説明できるようになる。
- 4．児童生徒及び大人に対する博物館資料の展示・立案・評価などの基礎的知識を理解し、説明できるようになる。

評価方法

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト30％（到達目標1，2，3，4を評価）、レポート2課題30％（到達目標2、4を評価）、定期試験40％（到達目標1，3，4を評価）による成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・本科目は博物館学芸員課程の必修科目であるので、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修すること。
- ・授業中に出席確認を行う。遅刻は3回で1欠席とする。
- ・講義終了前に講義内容に関する確認テストを行い、解答した出席用紙を提出してもらう。次回の講義開始時に確認テストについてコメントする。
- ・机上には飲食物を置かないこと（脱水症状防止のために、飲むことは禁止しない）。
- ・レポートの提出期限を守ること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	学びとは1 （人間の成長発達、教育・学習の必要性、教育の場）
第3回	学びとは2 （生涯学習、成人の発達特性、主体的学習の形成）
第4回	生涯学習・人材養成の場としての博物館
第5回	博物館教育の実践に役立つ理論1（エリクソン・ピアジェ）
第6回	博物館教育の実践に役立つ理論2（コミュニケーションの理論モデル、構成主義教育）

回数	内容
第7回	博物館展示の教育的意義 1（コミュニケーションの媒体としての展示）
第8回	博物館展示の教育的意義 2（鑑賞者の学習に寄与する展示）
第9回	博物館での教育実践（ワークショップ・体験学習等）
第10回	博物館と学校との連携 1
第11回	博物館と学校との連携 2
第12回	博物館と地域との連携（アウトリーチ）
第13回	博物館教育活動の企画と実施 1
第14回	博物館教育活動の企画と実施 2
第15回	博物館教育の方針と評価・まとめ

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・必ず授業の予習・復習をすること。
- ・講義内容を理解・整理するために、2つのレポートを課す。
- ・現在教育及び博物館を支える社会が大きく変化しているので、絶えずニュース・新聞等を通して変化しつつある社会の動向を把握しておくこと。
- ・平素から積極的に博物館を訪問し、どのような活動が行われているか観察すること。

教科書

黒沢浩編著『博物館教育論』講談社,2015.978-4-06-156542-5

参考書

- ・小笠原・並木・矢島編『博物館教育論－新しい博物館教育を描きだす－』ぎょうせい,2012.
- ・寺島・大高『博物館教育論』放送大学教育振興会,2012.
- ・小笠原喜康『博物館の学びをつくりだす』ぎょうせい,2009.
- ・『新時代の博物館学』芙蓉書房出版,2012.
- ・大堀哲・水嶋英治編著『博物館学II－博物館展示論*博物館教育－』学文社,2012.

備考

年次	2 年
対象	23 ～ 21 K,B
単位数	2． 0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

生涯学習時代の到来により、人々の価値観は「量」から「質」の追求へ、すなわち付加価値を有するものの追求へと大きく変化している。これにより博物館には児童生徒から大人までの多様な要求を持つ人々が訪れる。これからの博物館専門員である学芸員にはこれらの人々を支援していく能力・態度が求められる。

講義では、博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。また、博物館教育の現状を把握するためにも、必要に応じて教育及び博物館に関するトピックも取り上げる。

【フィードバック】

課題（確認テスト、レポート等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方型授業】

本授業では、Google Classroom を活用した双方向型授業を展開する。

- ・確認テストは、Google Classroom に課題を提示するので、提出期限までにGoogle Classroom に提出する。
- ・授業終了後に授業内容及び配付資料等を提示する。（復習に活用して下さい）
- ・課題（レポートⅠ・Ⅱ）はGoogle Classroom を通じて提示し、提出する。
- ・授業終了後に、当日配布した資料等を提示する。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用して、質問できるようにする。

到達目標

- 1．児童生徒及び大人を指導・助言するために必要な教育に関する基礎的知識を理解し、説明できるようになる。
- 2．生涯学習における博物館の位置づけを理解し・説明できるようになる。
- 3．博物館と学校・地域社会との連携のあり方について理解し・説明できるようになる。
- 4．児童生徒及び大人に対する博物館資料の展示・立案・評価などの基礎的知識を理解し、説明できるようになる。

評価方法

評価方法

授業終了前に実施する確認テスト30％（到達目標1，2，3，4を評価）、レポート2課題30％（到達目標2、4を評価）、定期試験40％（到達目標1，3，4を評価）による成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・本科目は博物館学芸員課程の必修科目であるので、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修すること。
- ・授業中に出席確認を行う。遅刻は3回で1欠席とする。
- ・講義終了前に講義内容に関する確認テストを行い、解答した出席用紙を提出してもらう。次回の講義開始時に確認テストについてコメントする。
- ・机上には飲食物を置かないこと（脱水症状防止のために、飲むことは禁止しない）。
- ・レポートの提出期限を守ること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	学びとは1 （人間の成長発達、教育・学習の必要性、教育の場）
第3回	学びとは2 （生涯学習、成人の発達特性、主体的学習の形成）
第4回	生涯学習・人材養成の場としての博物館
第5回	博物館教育の実践に役立つ理論1（エリクソン・ピアジェ）
第6回	博物館教育の実践に役立つ理論2（コミュニケーションの理論モデル、構成主義教育）

回数	内容
第7回	博物館展示の教育的意義 1（コミュニケーションの媒体としての展示）
第8回	博物館展示の教育的意義 2（鑑賞者の学習に寄与する展示）
第9回	博物館での教育実践（ワークショップ・体験学習等）
第10回	博物館と学校との連携 1
第11回	博物館と学校との連携 2
第12回	博物館と地域との連携（アウトリーチ）
第13回	博物館教育活動の企画と実施 1
第14回	博物館教育活動の企画と実施 2
第15回	博物館教育の方針と評価・まとめ

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。

- ・必ず授業の予習・復習をすること。
- ・講義内容を理解・整理するために、2つのレポートを課す。
- ・現在教育及び博物館を支える社会が大きく変化しているので、絶えずニュース・新聞等を通して変化しつつある社会の動向を把握しておくこと。
- ・平素から積極的に博物館を訪問し、どのような活動が行われているか観察すること。

教科書

黒沢浩編著『博物館教育論』講談社,2015.978-4-06-156542-5

参考書

- ・小笠原・並木・矢島編『博物館教育論－新しい博物館教育を描きだす－』ぎょうせい,2012.
- ・寺島・大高『博物館教育論』放送大学教育振興会,2012.
- ・小笠原喜康『博物館の学びをつくりだす』ぎょうせい,2009.
- ・『新時代の博物館学』芙蓉書房出版,2012.
- ・大堀哲・水嶋英治編著『博物館学II－博物館展示論*博物館教育－』学文社,2012.

備考

博物館資料保存論（66301）

前期

Conservation of Cultural Properties in Museums

博物館学芸員科目

年次	4 年
対象	25 ～ 21 B
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 松岡智子

授業の概要

実務経験のある本学教員の他に、美術館・博物館の館長や学芸員をはじめとする関係者を特別講師に招き、施設の概要や管理・運営などに関する具体的な仕事の内容について、さらには、所蔵資料の保存・展示方法や展覧会、催し物に関する情報発信の仕方や来館者に対するサービスについての事例や問題点等を理解することを目的とする。

【実務経験のある講師による授業科目】

到達目標

1. 美術館・博物館の管理・運営における具体的な活動、特に水族館や動物園も含む国内外の様々な博物館の資料に関する保存や展示方法について学ぶことにより、博物館全般の資料保存について幅広く多様な観点から理解し説明できるようになる。

評価方法

到達目標1について、授業時間中に毎回実施する確認テスト（40％）、レポート（60％）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

各自で選択した博物館相当施設の見学を行う。博物館実習に参加することを前提とし、学芸員の役割や心構え、また、資料の扱い方及び保存方法についてこの講義によって十分に理解を深めること。

本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

- オリエンテーション
- 犬養木堂記念館について（特別講師による）
- ライフパーク倉敷埋蔵文化センターについて（特別講師による）
- ライフパーク倉敷市民学習センターについて（特別講師による）
- ライフパーク倉敷教育センターについて（特別講師による）
- ライフパーク倉敷科学センターについて（特別講師による）
- ライフパーク倉敷情報学習センターについて（特別講師による）
- 倉敷市立自然史博物館について（特別講師による）
- 玉野海洋博物館について（特別講師による）
- 大原美術館について
- 日本の水族館について
- 世界の動物園について
- ヨーロッパの博物館における新たな方向性について
- 博物館における民族表象について
- 博物館資料保存論のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間 予習については、紹介された美術館・博物館に関する情報を文献やインターネット等で調べておくこと。また、各回の講義終了後、講義内容に関して考察したレポートを提出してもらうので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

(無し)

年次	4 年
対象	25 ～ 24 M
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 松岡智子

授業の概要

実務経験のある本学教員の他に、美術館・博物館の館長や学芸員をはじめとする関係者を特別講師に招き、施設の概要や管理・運営などに関する具体的な仕事の内容について、さらには、所蔵資料の保存・展示方法や展覧会、催し物に関する情報発信の仕方や来館者に対するサービスについての事例や問題点等を理解することを目的とする。

【実務経験のある講師による授業科目】

到達目標

1. 美術館・博物館の管理・運営における具体的な活動、特に水族館や動物園も含む国内外の様々な博物館の資料に関する保存や展示方法について学ぶことにより、博物館全般の資料保存について幅広く多様な観点から理解し説明できるようになる。

評価方法

到達目標1について、授業時間中に毎回実施する確認テスト（40％）、レポート（60％）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

各自で選択した博物館相当施設の見学を行う。博物館実習に参加することを前提とし、学芸員の役割や心構え、また、資料の扱い方及び保存方法についてこの講義によって十分に理解を深めること。

本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

- オリエンテーション
- 犬養木堂記念館について（特別講師による）
- ライフパーク倉敷埋蔵文化センターについて（特別講師による）
- ライフパーク倉敷市民学習センターについて（特別講師による）
- ライフパーク倉敷教育センターについて（特別講師による）
- ライフパーク倉敷科学センターについて（特別講師による）
- ライフパーク倉敷情報学習センターについて（特別講師による）
- 倉敷市立自然史博物館について（特別講師による）
- 玉野海洋博物館について（特別講師による）
- 大原美術館について
- 日本の水族館について
- 世界の動物園について
- ヨーロッパの博物館における新たな方向性について
- 博物館における民族表象について
- 博物館資料保存論のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間 予習については、紹介された美術館・博物館に関する情報を文献やインターネット等で調べておくこと。また、各回の講義終了後、講義内容に関して考察したレポートを提出してもらうので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

(無し)

年次	2 年
対象	27 ～ 24 B,M
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 松岡智子

授業の概要

本講義では導入として博物館の定義、機能、制度等について学び、発達の歴史と現状を世界と日本の博物館から代表的なものを事例に挙げ比較検討する。また、博物館を支える学芸員の役割について授業やボランティア活動活動を通して学ぶ。

【ICTを活用した双方向性型授業】

本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。

- ・ 授業内容を予め提示する(予習復習に活用すること)。
- ・ 授業時間外での授業や、課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

【フィードバック】

- ・ 課題(小テスト)に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．博物館についての基本的な考え方について、定義や目的、機能、制度等の幅広く多様な視点から理解し説明できる。
- 2．博物館発達の歴史及び課題について、日本並びに欧米、アジアの事例を比較することにより違いを理解し説明できる。
- 3．博物館でのボランティア活動を通じて、博物館を支える側及び利用者側の実態を把握し、課題を発見し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト 3 0 % (到達目標 1、 2 を評価)、ボランティア活動 2 0 % (到達目標 3 を評価)、定期試験 5 0 % (到達目標 1、 2 を評価) により成績を評価し、総合点 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

ボランティア活動の体験をふまえ、「科学博物館における教育普及活動」に関するレポートを提出すること。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	博物館学とは何かー博物館学の目的と構成、研究方法
第3回	博物館の定義と機能
第4回	博物館の制度
第5回	博物館の歴史と現状(1) ヨーロッパ 1 ； 博物館の起源(古代・中世)
第6回	博物館の歴史と現状(2) ヨーロッパ 2 ； 18世紀～第二次世界大戦
第7回	博物館の歴史と現状(3) ヨーロッパ 3 ； ポストモダン時代のミュージアム
第8回	博物館の歴史と現状(4) アメリカ
第9回	博物館の歴史と現状(5) アジア
第10回	博物館の歴史と現状(6) 日本; 近代博物館前史(奈良～江戸)
第11回	博物館の歴史と現状(7) 日本；明治～現代
第12回	博物館の歴史と現状(8) 博物館の政治学
第13回	学芸員の役割(1) 学芸員の定義と基本的な業務内容について
第14回	学芸員の役割(2) ミュージアムの時代へ向けて

回数	内容
第15回	総まとめ； 現代博物館の課題

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・予習については、毎回講義の最後に教科書の頁を指示するので該当箇所をよく読み、紹介された美術館や博物館について書籍やインターネット等で調べておくこと。
- ・なお、各回の授業終了時に小テストを実施するので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。
- ・また、毎年8月に開催されるライフパーク倉敷科学センターでの「ライフパークの集い」におけるボランティア活動に、積極的に参加すること。

教科書

大堀哲・水嶋英治『博物館学』学文社、2014年、ISBN978-4-7620-2284-5

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

(無し)

年次	2 年
対象	27 ～ 24 K,B,M
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 小山悦司

授業の概要

本科目では、(1)博物館における情報・メディアの意義、(2)博物館情報・メディアの理論、(3)博物館における情報発信、(4)博物館と知的財産を中心に学ぶ。
特に、博物館における先進的な情報・メディアの活用について概観し、今後の方向性について展望する。また、博物館における情報・メディアの活用について、科学博物館、自然史博物館、美術館、歴史博物館等でのフィールドワークを通して、実践的な理解を深めることを目的としている。

- 【アクティブ・ラーニング】グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】最終回の授業において、レポート・プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。
- ・課題レポートの提示と提出は、Google Classroomを活用して行う。
 - ・参考となる資料や文献、確認しておくべきWeb サイトなどを提示する。
 - ・授業時間外での質問については、Google Classroomを通して回答する。

到達目標

- 1 博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し説明できる。
2 博物館における情報の提供と活用等に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
3 教室での授業に加えて博物館でのフィールドワークを通して、(1)博物館における情報・メディアの意義、(2)博物館情報・メディアの理論、(3)博物館における情報発信、(4)博物館と知的財産について理解し、学芸員に求められる応用的な知識・技能を身に付ける。

評価方法

理論調査報告レポート15%と理論調査プレゼンテーション15%（到達目標2を評価）、実地調査報告レポート15%と実地調査プレゼンテーション15%（到達目標3を評価）、定期試験40%（到達目標1を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格科目として、授業の水準を維持する必要があるので、明確な目的意識を持って履修すること。
博物館情報・メディアに関するテーマを設定し、理論調査と実地調査（フィールドワーク）の結果をレポートにまとめてプレゼンテーションを実施する。
実際に博物館においてフィールドワークを行うので、自主的かつ積極的な態度や姿勢が求められる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について
第2回	博物館情報・メディア論の目的・内容および方法
第3回	情報・メディアの意義と重要性 【グループ・ワーク】
第4回	ICT社会の中の博物館
第5回	情報教育の意義と必要性
第6回	博物館における情報化の進展
第7回	資料のドキュメンテーションとデータベース化
第8回	個人情報(肖像権等)と知的財産権(著作権等)
第9回	博物館情報・メディアの活用事例 【フィールド・ワーク】
第10回	科学博物館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第11回	博物館における効果的な情報発信に向けて 【プレゼンテーション】

回数	内容
第12回	美術館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第13回	歴史博物館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第14回	博物館における効果的な情報発信に向けて 【プレゼンテーション】
第15回	レポート・プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた事後指導・総括

授業外学習

博物館を訪問してフィールドワークを行い、情報・メディアの観点から実地調査報告レポートにまとめてプレゼンテーションの準備を行う。
フィールドワーク（実地調査）の実施、レポートの作成、プレゼンテーションの準備など、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

特に使用しない。自作教材を配布する。

参考書

必要に応じて適宜指示する。

備考

Google Classroomを基本ツールと活用する。

年次	2 年
対象	23 ～ 21 K,B
単位数	2． 0 単位
担当教員	 小山悦司

授業の概要

本科目では、(1)博物館における情報・メディアの意義、(2)博物館情報・メディアの理論、(3)博物館における情報発信、(4)博物館と知的財産を中心に学ぶ。
特に、博物館における先進的な情報・メディアの活用について概観し、今後の方向性について展望する。また、博物館における情報・メディアの活用について、科学博物館、自然史博物館、美術館、歴史博物館等でのフィールドワークを通して、実践的な理解を深めることを目的としている。

- 【アクティブ・ラーニング】グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】最終回の授業において、レポート・プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。
- ・課題レポートの提示と提出は、Google Classroomを活用して行う。
 - ・参考となる資料や文献、確認しておくべきWeb サイトなどを提示する。
 - ・授業時間外での質問については、Google Classroomを通して回答する。

到達目標

- 1 博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し説明できる。
2 博物館における情報の提供と活用等に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。
3 教室での授業に加えて博物館でのフィールドワークを通して、(1)博物館における情報・メディアの意義、(2)博物館情報・メディアの理論、(3)博物館における情報発信、(4)博物館と知的財産について理解し、学芸員に求められる応用的な知識・技能を身に付ける。

評価方法

理論調査報告レポート15%と理論調査プレゼンテーション15%（到達目標2を評価）、実地調査報告レポート15%と実地調査プレゼンテーション15%（到達目標3を評価）、定期試験40%（到達目標1を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。資格科目として、授業の水準を維持する必要があるので、明確な目的意識を持って履修すること。
博物館情報・メディアに関するテーマを設定し、理論調査と実地調査（フィールドワーク）の結果をレポートにまとめてプレゼンテーションを実施する。実際に博物館においてフィールドワークを行うので、自主的かつ積極的な態度や姿勢が求められる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について
第2回	博物館情報・メディア論の目的・内容および方法
第3回	情報・メディアの意義と重要性 【グループ・ワーク】
第4回	ICT社会の中の博物館
第5回	情報教育の意義と必要性
第6回	博物館における情報化の進展
第7回	資料のドキュメンテーションとデータベース化
第8回	個人情報(肖像権等)と知的財産権(著作権等)
第9回	博物館情報・メディアの活用事例 【フィールド・ワーク】
第10回	科学博物館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第11回	博物館における効果的な情報発信に向けて 【プレゼンテーション】

回数	内容
第12回	美術館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第13回	歴史博物館における情報・メディアの活用 【プレゼンテーション】
第14回	博物館における効果的な情報発信に向けて 【プレゼンテーション】
第15回	レポート・プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた事後指導・総括

授業外学習

博物館を訪問してフィールドワークを行い、情報・メディアの観点から実地調査報告レポートにまとめてプレゼンテーションの準備を行う。
フィールドワーク（実地調査）の実施、レポートの作成、プレゼンテーションの準備など、合計して60時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

特に使用しない。自作教材を配布する。

参考書

必要に応じて適宜指示する。

備考

Google Classroomを基本ツールと活用する。

年次	2 年
対象	23 ～ 21 B
単位数	2．0 単位
担当教員	 松岡智子

授業の概要

本講義では導入として博物館の定義、機能、制度等について学び、発達の歴史と現状を世界と日本の博物館から代表的なものを事例に挙げ比較検討する。また、博物館を支える学芸員の役割について授業やボランティア活動活動を通して学ぶ。

【ICTを活用した双方向性型授業】

本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。

- ・授業内容を予め提示する(予習復習に活用すること)。
- ・授業時間外での授業や、課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

【フィードバック】

- ・課題(小テスト)に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．博物館についての基本的な考え方について、定義や目的、機能、制度等の幅広く多様な視点から理解し説明できる。
- 2．博物館発達の歴史及び課題について、日本並びに欧米、アジアの事例を比較することにより違いを理解し説明できる。
- 3．博物館でのボランティア活動を通じて、博物館を支える側及び利用者側の実態を把握し、課題を発見し説明できる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト30%(到達目標1、2を評価)、ボランティア活動20%(到達目標3を評価)、定期試験50%(到達目標1、2を評価)により成績を評価し、総合点60点以上を合格とする。

注意事項

ボランティア活動の体験をふまえ、「科学博物館における教育普及活動」に関するレポートを提出すること。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	博物館学とは何かー博物館学の目的と構成、研究方法
第3回	博物館の定義と機能
第4回	博物館の制度
第5回	博物館の歴史と現状(1) ヨーロッパ1；博物館の起源(古代・中世)
第6回	博物館の歴史と現状(2) ヨーロッパ2；18世紀～第二次世界大戦
第7回	博物館の歴史と現状(3) ヨーロッパ3；ポストモダン時代のミュージアム
第8回	博物館の歴史と現状(4) アメリカ
第9回	博物館の歴史と現状(5) アジア
第10回	博物館の歴史と現状(6) 日本; 近代博物館前史(奈良～江戸)
第11回	博物館の歴史と現状(7) 日本；明治～現代
第12回	博物館の歴史と現状(8) 博物館の政治学
第13回	学芸員の役割(1) 学芸員の定義と基本的な業務内容について
第14回	学芸員の役割(2) ミュージアムの時代へ向けて

回数	内容
第15回	総まとめ； 現代博物館の課題

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・予習については、毎回講義の最後に教科書の頁を指示するので該当箇所をよく読み、紹介された美術館や博物館について書籍やインターネット等で調べておくこと。
- ・なお、各回の授業終了時に小テストを実施するので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。
- ・また、毎年8月に開催されるライフパーク倉敷科学センターでの「ライフパークの集い」におけるボランティア活動に、積極的に参加すること。

教科書

大堀哲・水嶋英治『博物館学』学文社、2014年、ISBN978-4-7620-2284-5

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

(無し)

年次	2 年
対象	27 ～ 24 B,M
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 松岡智子

授業の概要

博物館や美術館に収集・展示される資料の取り扱いについて、基本的な心構えや留意事項、さらに素材別(主に美術品、古文書、民俗資料、自然史標本等)についての基礎知識を学ぶ。

前半(第1～6回)は松岡が担当し、後半(第8～14回)は狩山が担当する。第11～14回では狩山が倉敷市立自然史博物館で集中講義を行い、植物標本の作製と植物図鑑の作成の指導をする。

15回目の総まとめの授業を松岡が行う。

【アクティブラーニング】調査学習、フィールドワーク、ボランティア活動を取り入れている。

【フィードバック】課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただく。

・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

【実務経験のある教員による授業科目】元美術館学芸員の松岡と、現在、倉敷市立自然史博物館学芸員である狩山が講義を担当している。

到達目標

- 1．博物館資料の概念や素材別の取り扱いについての基本を理解し説明できる。
- 2．植物標本の作製と植物図鑑の作成を行うことができる。
- 3．倉敷市立自然史博物館でのボランティア活動を通して、実践的な博物館活動を他者に明確に説明できる。
- 4．様々な博物館資料を扱うことによって、生命科学部と芸術学部双方の受講生が、自らとは異なる専門分野に対して視野を広げることができるようになる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト 3 0 %(到達目標 1 を評価)と、自然史資料の取り扱いにおける理論と実践に関するレポート 4 0 %(到達目標 2 を評価)、ボランティア活動報告書 3 0 %(到達目標 3 を評価)により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格点とする。

注意事項

4年次で博物館実習に参加することを前提とし、学芸員の役割や心構え、また、資料の扱い方についてこの講義によって十分に理解を深めること。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

また、倉敷市立自然史博物館講義室での集中講義(12月20～27日のうち1日)では、学生ひとり30円の観覧料と新聞紙2日分と定規(15～30 c m)を持参し、第8, 9, 10回の講義内容についてのレポートを狩山に提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー 博物館における資料とは (担当；松岡)
第2回	博物館資料の概念 (担当；松岡)
第3回	博物館資料の収集・整理・保管 (担当；松岡)()
第4回	大学における博物館 (担当；松岡)
第5回	博物館資料としての古文書 (担当；松岡)
第6回	博物館資料としての民俗 (担当；松岡)
第7回	動物観・植物園・水族館における研究活動について (担当；松岡)
第8回	自然史資料の収集 (担当；狩山)
第9回	自然史資料の調査研究 (担当；狩山)
第10回	自然史資料の展示 (担当；狩山)

回数	内容
第11回	植物標本の作製と植物図鑑の作成(担当；狩山)
第12回	植物標本の作製と植物図鑑の作成(担当；狩山)
第13回	植物標本の作製と植物図鑑の作成(担当；狩山)
第14回	植物標本の作製と植物図鑑の作成(担当；狩山)
第15回	総まとめー博物館資料の今後と課題（担当；松岡)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習については、毎回講義の最後に教科書の頁を指示するので該当箇所をよく読んでおくこと。なお、各回の授業終了時に小テストを実施するので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。

11月3日に倉敷市立自然史博物館で開催される「博物館まつり」のボランティア活動には、授業の一環として参加し、報告書を提出すること。

教科書

大堀哲・水嶋英治 編著 『博物館学Ⅰ』 学文社 2014年 ISBN978-4-7620-2284-5

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

(無し)

年次	2 年
対象	23 ～ 21 B
単位数	2．0 単位
担当教員	 松岡智子

授業の概要

博物館や美術館に収集・展示される資料の取り扱いについて、基本的な心構えや留意事項、さらに素材別(主に美術品、古文書、民俗資料、自然史標本等)についての基礎知識を学ぶ。

前半(第1～6回)は松岡が担当し、後半(第8～14回)は狩山が担当する。第11～14回では狩山が倉敷市立自然史博物館で集中講義を行い、植物標本の作製と植物図鑑の作成の指導をする。

15回目の総まとめの授業を松岡が行う。

【アクティブラーニング】調査学習、フィールドワーク、ボランティア活動を取り入れている。

【フィードバック】課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただく。

・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

【実務経験のある教員による授業科目】元美術館学芸員の松岡と、現在、倉敷市立自然史博物館学芸員である狩山が講義を担当している。

到達目標

- 1．博物館資料の概念や素材別の取り扱いについての基本を理解し説明できる。
- 2．植物標本の作製と植物図鑑の作成を行うことができる。
- 3．倉敷市立自然史博物館でのボランティア活動を通して、実践的な博物館活動を他者に明確に説明できる。
- 4．様々な博物館資料を扱うことによって、生命科学部と芸術学部双方の受講生が、自らとは異なる専門分野に対して視野を広げることができるようになる。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト3 0 %(到達目標 1 を評価)と、自然史資料の取り扱いにおける理論と実践に関するレポート4 0 %(到達目標 2 を評価)、ボランティア活動報告書3 0 %(到達目標 3 を評価)により成績を評価し、総合計6 0 点以上を合格点とする。

注意事項

4年次で博物館実習に参加することを前提とし、学芸員の役割や心構え、また、資料の扱い方についてこの講義によって十分に理解を深めること。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。

また、倉敷市立自然史博物館講義室での集中講義(12月20～27日のうち1日)では、学生ひとり30円の観覧料と新聞紙2日分と定規(15～30 c m)を持参し、第8, 9, 10回の講義内容についてのレポートを狩山に提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーションー 博物館における資料とは (担当；松岡)
第2回	博物館資料の概念 (担当；松岡)
第3回	博物館資料の収集・整理・保管 (担当；松岡)()
第4回	大学における博物館 (担当；松岡)
第5回	博物館資料としての古文書 (担当；松岡)
第6回	博物館資料としての民俗 (担当；松岡)
第7回	動物観・植物園・水族館における研究活動について (担当；松岡)
第8回	自然史資料の収集 (担当；狩山)
第9回	自然史資料の調査研究 (担当；狩山)
第10回	自然史資料の展示 (担当；狩山)

回数	内容
第11回	植物標本の作製と植物図鑑の作成(担当；狩山)
第12回	植物標本の作製と植物図鑑の作成(担当；狩山)
第13回	植物標本の作製と植物図鑑の作成(担当；狩山)
第14回	植物標本の作製と植物図鑑の作成(担当；狩山)
第15回	総まとめー博物館資料の今後と課題（担当；松岡)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

予習については、毎回講義の最後に教科書の頁を指示するので該当箇所をよく読んでおくこと。なお、各回の授業終了時に小テストを実施するので、毎回の講義についてよく復習しておくこと。

11月3日に倉敷市立自然史博物館で開催される「博物館まつり」のボランティア活動には、授業の一環として参加し、報告書を提出すること。

教科書

大堀哲・水嶋英治 編著 『博物館学Ⅰ』 学文社 2014年 ISBN978-4-7620-2284-5

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

(無し)

博物館実習（66601）

通年

Museological Practicum

博物館学芸員科目

年次	4 年
対象	25 ～ 21 B
単位数	3．0 単位
担当教員	👤 松岡智子

授業の概要

実習生は希望する実習先（大原美術館、ライフパーク倉敷科学センター、加計美術館、玉野海洋博物館、池田動物園など）で、事前・事後指導を含めた短期の実習を行う。また、岡山県内の美術館・博物館の見学実習を行う。

- 【アクティブラーニング】美術館・博物館施設での課題解決型学習および現場実習を取り入れている。
- 【フィードバック】課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．学芸員の仕事の内容を他者に明確に説明できる。
- 2．博物館活動を理解し説明できる。
- 3．博物館資料の取り扱いや事務・実務能力の基本的な姿勢を理解し説明できる。

評価方法

事前指導と見学実習の課題レポート 3 0 % (到達目標 2 を評価) 及び、博物館実習先からの評価 7 0 % (到達目標 1、2、3 を評価) により成績を評価し、総合計 6 0 % 以上を合格とする。

注意事項

真剣に取り組むこと。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。
調査等のため学外で授業を行う。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.事前指導
- 3.事前指導
- 4－17．学外実習
(大原美術館、ライフパーク倉敷科学センター、加計美術館、池田動物園で実習を行う)
- 18.事前指導
- 19.事前指導
- 20－28．見学実習
(希望する美術館・博物館を見学する)
- 29－30．事後指導・総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計45時間
学外実習や見学実習では、実習後に課題レポートを提出するので、よく復習しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。

備考

(無し)

博物館展示論（66602）

通年

Museum Display

博物館学芸員科目

年次	3 年
対象	26 ～ 20 B
単位数	2．0 単位
担当教員	 松岡智子  吉崎和彦

授業の概要

・本科目では、博物館の基本的な機能である「展示」を理解するために、前半(第2～8回、担当；松岡)においては、グループで見学を希望する博物館を選択し、美術館、歴史博物館、自然史博物館、水族館、動物園等でのフィールドワークを行い、パワーポイントで資料を作成しプレゼンテーションをし、それに対して全体討議を行う。

【アクティブ・ラーニング】グループ・ワーク、フィールド・ワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】グループワーク、フィールド・ワーク、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
(第1～7回、15回 担当；松岡)

・授業の後半では現代アートの展覧会に焦点を当てて、その様々な形式や政治性について事例を通して学び、展覧会とは何かについて考える。
まず展覧会の歴史やその実験的な試み、そして展覧会のもつ政治性について学ぶ。次に、展覧会がどのように作られているのかについて具体的な事例を挙げて紹介した後、実際に架空の展覧会を構想する演習を行う。最後に、近年日本中で開催されている都市・地域のアートフェスティバルについて考え、社会におけるミュージアムの役割について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】グループ・ワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】グループ・ワーク、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
(第9～14回、担当；吉崎)

【実務経験のある講師による授業科目】元美術館学芸員で博物館学を専門とする松岡と、東京都現代美術館を経て、現在、山口情報芸術センター学芸員の吉崎が授業を担当する。

到達目標

- 1．フィールドワークにより様々な博物館の展示方法を発見し説明することができる。(松岡)
- 2．学芸員資格に関するその他の科目(博物館概論、博物館資料論、博物館経営論、博物館教育論、博物館情報・メディア論、生涯学習概論)との相互補完性も高まり、博物館について総合的に理解し説明できる。(松岡)
- 3．展覧会について理論と実践の両方から学び、展覧会の作り方、学芸員の仕事、美術館・博物館の役割について理解し説明できる。(吉崎)

評価方法

グループ活動・プレゼンテーション50%(到達目標1・2を評価)と、演習への参加状況50%(到達目標3を評価)に基づいて総合的に評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は博物館学芸員になるための資格免許科目であり、受講生は4年次の博物館実習を前提としているため、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について (担当；松岡)
第2回	博物館展示のコンセプトと具現化について 【グループワーク】 (担当；松岡)
第3回	美術館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第4回	科学博物館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第5回	水族館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第6回	動物園における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第7回	全体討議とプレゼンテーションにおける講評や省察などのフィードバックを含めた事後指導・総括 (担当；松岡)

回数	内容
第8回	展覧会とは何かー現代アートを中心として (担当；吉崎)
第9回	展覧会の政治性ー「他者」を表象することについて (担当；吉崎)
第10回	展覧会の作り方ー構想 (担当；吉崎)
第11回	展覧会の作り方ー実施 (担当；吉崎)
第12回	社会におけるミュージアムの役割(担当；吉崎)
第13回	都市におけるミュージアムの役割 (担当；吉崎)
第14回	都市・地域におけるアートフェスティバルの事例 (担当；吉崎)
第15回	まとめ； ミュージアム展示の新たな方向性 (担当；松岡)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・グループで博物館の展示に関するフィールド・ワークを行い、プレゼンテーションのための資料作成を行い提出する。

教科書

特に使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

(無し)

博物館展示論（66603）

通年

Museum Display

博物館学芸員科目

年次	3 年
対象	26 ～ 24 M
単位数	2．0 単位
担当教員	松岡智子 吉崎和彦

授業の概要

・本科目では、博物館の基本的な機能である「展示」を理解するために、前半(第2～8回、担当；松岡)においては、グループで見学を希望する博物館を選択し、美術館、歴史博物館、自然史博物館、水族館、動物園等でのフィールドワークを行い、パワーポイントで資料を作成しプレゼンテーションをし、それに対して全体討議を行う。

【アクティブ・ラーニング】グループ・ワーク、フィールド・ワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】グループワーク、フィールド・ワーク、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
(第1～7回、15回 担当；松岡)

・授業の後半では現代アートの展覧会に焦点を当てて、その様々な形式や政治性について事例を通して学び、展覧会とは何かについて考える。
まず展覧会の歴史やその実験的な試み、そして展覧会のもつ政治性について学ぶ。次に、展覧会がどのように作られているのかについて具体的な事例を挙げて紹介した後、実際に架空の展覧会を構想する演習を行う。最後に、近年日本中で開催されている都市・地域のアートフェスティバルについて考え、社会におけるミュージアムの役割について学ぶ。

【アクティブ・ラーニング】グループ・ワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】グループ・ワーク、プレゼンテーションに対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
(第9～14回、担当；吉崎)

【実務経験のある講師による授業科目】元美術館学芸員で博物館学を専門とする松岡と、東京都現代美術館を経て、現在、山口情報芸術センター学芸員の吉崎が授業を担当する。

到達目標

- 1．フィールドワークにより様々な博物館の展示方法を発見し説明することができる。(松岡)
- 2．学芸員資格に関するその他の科目(博物館概論、博物館資料論、博物館経営論、博物館教育論、博物館情報・メディア論、生涯学習概論)との相互補完性も高まり、博物館について総合的に理解し説明できる。(松岡)
- 3．展覧会について理論と実践の両方から学び、展覧会の作り方、学芸員の仕事、美術館・博物館の役割について理解し説明できる。(吉崎)

評価方法

グループ活動・プレゼンテーション50%(到達目標1・2を評価)と、演習への参加状況50%(到達目標3を評価)に基づいて総合的に評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は博物館学芸員になるための資格免許科目であり、受講生は4年次の博物館実習を前提としているため、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 授業計画について (担当；松岡)
第2回	博物館展示のコンセプトと具現化について 【グループワーク】 (担当；松岡)
第3回	美術館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第4回	科学博物館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第5回	水族館における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第6回	動物園における展示の事例 【プレゼンテーション】 (担当；松岡)
第7回	全体討議とプレゼンテーションにおける講評や省察などのフィードバックを含めた事後指導・総括 (担当；松岡)

回数	内容
第8回	展覧会とは何かー現代アートを中心として (担当；吉崎)
第9回	展覧会の政治性ー「他者」を表象することについて (担当；吉崎)
第10回	展覧会の作り方ー構想 (担当；吉崎)
第11回	展覧会の作り方ー実施 (担当；吉崎)
第12回	社会におけるミュージアムの役割(担当；吉崎)
第13回	都市におけるミュージアムの役割 (担当；吉崎)
第14回	都市・地域におけるアートフェスティバルの事例 (担当；吉崎)
第15回	まとめ； ミュージアム展示の新たな方向性 (担当；松岡)

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・グループで博物館の展示に関するフィールド・ワークを行い、プレゼンテーションのための資料作成を行い提出する。

教科書

特に使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

(無し)

博物館実習（66604）

通年

Museological Practicum

博物館学芸員科目

年次	4 年
対象	25 ～ 24 M
単位数	3．0 単位
担当教員	👤 松岡 智子

授業の概要

実習生は希望する実習先（大原美術館、ライフパーク倉敷科学センター、加計美術館、玉野海洋博物館、池田動物園など）で、事前・事後指導を含めた短期の実習を行う。また、岡山県内の美術館・博物館の見学実習を行う。

- 【アクティブラーニング】美術館・博物館施設での課題解決型学習および現場実習を取り入れている。
- 【フィードバック】課題に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．学芸員の仕事の内容を他者に明確に説明できる。
- 2．博物館活動を理解し説明できる。
- 3．博物館資料の取り扱いや事務・実務能力の基本的な姿勢を理解し説明できる。

評価方法

事前指導と見学実習の課題レポート 3 0 % (到達目標 2 を評価) 及び、博物館実習先からの評価 7 0 % (到達目標 1、2、3 を評価) により成績を評価し、総合計 6 0 % 以上を合格とする。

注意事項

真剣に取り組むこと。本科目は、博物館学芸員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりとした目的意識を持って履修しなければならない。
調査等のため学外で授業を行う。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.事前指導
- 3.事前指導
- 4－17．学外実習
(大原美術館、ライフパーク倉敷科学センター、加計美術館、池田動物園で実習を行う)
- 18.事前指導
- 19.事前指導
- 20－28．見学実習
(希望する美術館・博物館を見学する)
- 29－30．事後指導・総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計45時間
学外実習や見学実習では、実習後に課題レポートを提出するので、よく復習しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。

備考

(無し)